

茨木市豊川～高槻市山手町

●歩行距離／10.0km ●標準歩行時間／2時間30分 ※1時間4kmで計算しています

街道一番の見どころの一つ、郡山宿本陣から太田茶臼山古墳(継体天皇陵)を過ぎて高槻市内に入ります。芥川の一里塚を目印に散策を続けると、道幅が狭く古いまち並みの残る旧街道らしい道に出ます。ここが参勤交代で栄えた芥川宿です。大名行列や旅人が行き交った往時の面影を感じることができます。



郡山宿本陣



江戸時代の旅籠で、国の史跡指定を受けています。西国街道のほぼ真ん中にあり、正面入口脇に椿が美しい花を咲かせていたので、「椿の本陣」とも呼ばれていました。現在も残っている宿帳には、忠臣蔵で有名な赤穂城主・浅野内匠頭が宿泊した記録があります。

今城塚古墳



周囲を二重の濠がめぐる総長約350m、総幅約340mの淀川流域では最大の方後円墳です。平成9年(1997)から調査が行われ、日本最大の家形埴輪や精緻な武人埴輪が発見されています。第26代継体天皇の陵墓と推定されていますが、約1.6km西にある太田茶臼山古墳を陵墓とする説もあります。

上宮天満宮



菅原道真の祖先、野見宿弥ゆかりの地であることから、菅原道真を祀ったと伝えられています。天正年間に高山氏の兵火に遭って焼失したものの、豊臣秀吉によって再興されました。本殿脇には鎌倉時代につくられたといわれる石灯籠があり、国の重要美術品に指定されています。

磐手杜神社



もとは安満神社といい、壮大で美しくあったといわれている社殿は、天正年間に兵火により焼失しました。現在の社殿は、元和8年(1622)に再興されたもの。杜の森は「磐手の杜」といわれ、その言葉は古来より歌枕として使われています。拝殿のそばには夜啼き石とよばれる奇石があります。